

特集「豊かなアウトドアライフに向けて」にあたって

平成6年から7年にかけて『自然とレジャー・レクリエーション』と題して、月例研究会を実施した。これは本誌27号のお知らせにも記したとおり、近年における自然志向の高まりに伴い、ライフスタイルや教育そして空間整備の在り方などを考えていくうえで、「自然」との関わりが重要な課題となってきたという認識と、本学会においても、「自然」の問題に対して大きな関心が寄せられているという認識のもとに企画され、実施されたものである。そして、原論、教育、環境、産業、行政などの様々な観点から議論し、自然との豊かなつきあい方や、人間や生活に内在する自然などについて探るために、下記の方々に話題を提供していただいた。

この研究会において議論を重ねていく過程で、現代、特に近年になって社会の状況や志向、価値観が大きく変化してきており、屋外におけるレクリエーション活動の志向や動向についても様々な変化が見られるようになってきたことが、度々、話題に上った。例えば、観光や旅行も、周遊型の観光から滞在型で自己実現型へと志向がスライドしてきているし、スポーツに関しても競技、競争型から個人による楽しみ（遊び）方へとウェイトを移しつつある。こうした人々の志向の変化を受け止めて、行政サイドの施策や、活動の場として提供される空間や環境整備の考え方も大きく転換してきているようである。そこで、本誌の特集としては、研究会の直接のテーマであるレクリエーション活動における自然とのふれ合いや調和問題を、それらを中心に包含しつつも、より広い概念であるアウトドアライフという観点で構成してみることにした。

話題提供ないしは議論にご参加いただいた方々に、月例研究会での議論を踏まえてのご執筆をお願いしている。本誌の紙面の都合もあり、今号は森林総合研究所の田中伸彦氏に、「アウトドア活動充実のための行政施策の動向 — 林野庁の施策を中心に —」と題してご執筆いただいた。今後、より豊かな展開が求められるアウトドア活動（アウトドアライフ）の概念整理や近年の動向、そしてそれを支える環境整備や、プログラムづくりなどの問題について、順次、取り上げていきたいと考えている。

(編集・研究会委員会)

月 日	テ ー マ	話題提供者
平成6年10月8日	自然概念について	下 村 彰 男 氏
11月5日	自然と祝祭(祭り)	梅 澤 佳 子 氏
12月3日	自然地(環境)の管理	神 田 修 二 氏
		田 中 伸 彦 氏
平成7年1月14日	自然と生活文化	松 田 義 幸 氏
2月4日	自然と都市環境	下 村 彰 男 氏
		海 津 ゆりえ 氏
3月4日	自然とスポーツ	前 野 淳一郎 氏
4月8日	自然と遊び:プログラムなど	降 旗 信 一 氏
5月13日	自然と教育:環境教育	芳 賀 健 治 氏
6月3日	自然と芸術	高 野 楨 子 氏